

日本剣道形 太刀の形解説 二本目

項目	二本目	
動作の解説	①	打太刀、仕太刀相中段で、互いに右足から進み、間合に接したとき、打太刀は機を見て仕太刀の(1)右小手を打つ。 注(1) 大技で仕太刀の右小手の位置より、わずかに低く打つ。
	②	仕太刀は、左足から右足をともなって左斜め後ろにひくと同時に、剣先を下げて、打太刀の刀の下で半円をえがく心持ちで打太刀の打ち込んでくるのを抜いて、大きく(1)右足を踏み出すと同時に打太刀の右小手を打つ。 注(1) 右足を踏み出すとき、左足も進める。
	③	打太刀は左足から、仕太刀は右足から十分な気位で(1)残心を示しながら、相中段になりつつ、刀を抜き合わせた位置にもどり、剣先を下げて、元の位置にかえる。 注(1) 形には表さない残心なので、特に十分な気位がたいせつである。
指導上の留意点	1	打太刀は仕太刀の右小手を正しく打ち、下まで打ち下ろさず、右小手の位置よりわずかに低く打たせる。
	2	仕太刀は打太刀の刀を抜いたら、上段からまっすぐ打ち下ろし、斜め打ちにならないようにさせる。
審査上の着眼点	打	中段の構えから大技で正しく仕太刀の右小手を打ち、右小手の位置よりわずかに低く打っているか。
	仕	打太刀の右小手打ちに対して、左斜め後ろにひくと同時に刀の下で半円をえがく気持で抜き、大技で正しく右小手を打っているか。
	仕	充実した気位で残心を示しながら相中段になっているか。

出典: 全日本剣道連盟「日本剣道形解説書」より